



TECUM Letter

2018年6月号 創刊第3号 (通巻4号)

目次

0	映画「セント・オブ・ウーマン」のすすめ — 大幅な遅れに対する皆様への謝罪に代えて	1
1	はじめに — 2018年度約半年間の TECUM の活動について	2
2	特別寄稿 プロジェクト TECUM 新たなる船出	4
3	連載論考 「数学の世界」と「物理学の世界」 No.4	4
4	新連載：「数学的な思考力」の難しさ —— 初等数学の困難 No.1	8
5	連載：スクリプトの開く世界 No.4	10
6	新連載：いまどきの学校から No.1	13

0 映画「セント・オブ・ウーマン」のすすめ — 大幅な遅れに対する皆様への謝罪に代えて

今回は、正式発行が本来の6月初旬からかなり遅れて7月6日にまでなってしまったのと、その事情を説明する「TECUM 活動報告」が長文になってしまいましたので、いつもは第0節として述べているのですが、最初から長すぎるそれを読む勇気を奮い立たせていただくために、とても軽い第0節を設けることにしました。

実は、約一年前の昨年7月22日に竹橋如水会館に集まっていた皆様を前にして少し長いお話を致しました。その話の後半は「TECUM 構想」の突如の発表でした。詳しくは、

<http://www.tecum.world/tecum.pdf>

をお読みください。特に、まだの方は、です。より読みやすく、ファイルの葉を日本語化してあります。

その冒頭の方で、日本では国民に対する愚民化政策が露骨に進行しているということの端的な例として、公共放送の低俗化に触れ、BBC制作の人気TV dramaである *Foyle's War* が、わが国では「刑事ファイル」と翻訳されているという事例を引きました。劣勢が続く第2次世界大戦下の英国で、同胞の犠牲には目もくれず、社会と国の混乱に乗じて私服を肥やす不埒な勢力に対して、「売国奴」の汚名や失職の危険を顧みずに身を挺して闘う、警察組織の中間管理職である警部フォイルの「戦争以上に厳しい戦争」、つまり「腐敗した身内に対する闘い」を描いたものなのですが、その意味が題名から完全に消されていました。

私は、ゼミではしばしば洋書（といっても、ほとんどの場合は英語の本）を指定してきました。学生には、それを「ゼミの前に読んできて訳す」（本当はその作業を通じて、本の中に表現されている数理世界を自分の言葉で表現しなおす）ことを要求しているのですが、中学、高校の「英語」教育の影響なのか、「そんな訳では、正しく理解しているとはいえない」という私の指摘に対して、しばしば学生から